

CONTENTS

広報

ななお

2010 No.64

1

目次

- 2 ひと人ヒト
(平成22年七尾市成人式実行委員会)
- 3 武元市長 新年のあいさつ
- 4 ふるさと納税だより
- 5 平成21年度12月補正予算のあらまし
- 6 国際交流コラム/市長談話室/
ななこちゃんのエコ生活
- 7 市民相談/ケーブルテレビからのお知らせ
- 8 情報ランド (お知らせ)
- 12 まちの顔
- 14 伸ばせ!七尾っ子プロジェクト/
児童館へ行く
- 15 イベント情報
- 16 休日医療情報/不用品活用銀行
- 17 みんなの本棚
- 18 長谷川等伯没後400年記念事業/
わが家のアイドル

今月の表紙

毎年12月12日から13日にかけて七尾市内を巡行して、鶺鴒を羽咋市の気多大社まで運び、16日に神事が行われる冬の風物詩「鶺鴒祭り」。

鶺鴒は鹿渡島に住む鶺鴒捕主任の小西家によって捕まえられ、その技術も小西家だけの世襲とされる。鶺鴒を運ぶのも鹿渡島に住む20軒の鶺鴒捕部が毎年3人ずつ交代で務める。

この習慣は、鶺鴒捕部と呼ばれる特色ある集団の存在とともに、運ばれる道中の人々が、鶺鴒を「鶺鴒様」と呼び神聖視するなど、全国でも珍しい貴重な習俗といわれる。

新しい年の幸せを願って「鶺鴒様」に手を合わせる人々の姿は、今も昔も変わらぬ光景に違いない。
(※12ページに関連記事)

ひと

ヒト

Home ふるさと みち
抱夢～七尾を胸にそれぞれの平成を～

平成22年1月10日(日) 七尾市成人式

七尾市成人式実行委員会



今年のテーマは「抱夢」七尾を胸にそれぞれの平成を。「夢を抱きつつも、ふるさとを忘れないように。参加者がそう感じられるような成人式にしたい。」平成22年七尾市成人式実行委員会の宮下弘樹委員長(写真一番左、田鶴浜町)は成人式への想いを話してくれた。

成人式を実行委員会(企画運営を成人者が行う)が行うことが決まり、8月に第1回の実行委員会を開催。以降の実行委員会は30回以上を数える。「はじめは全く知らないメンバー同士だったけど、不思議なくらいチームワークが良くて、自分がいつも助けられている」と仲間の大切さを実感している。

本番が近づき、週3回集まっているものの「みんな仕事などが終わってから集まってくるので、なかなか思うように準備が進まない」と本

音もポロリ。それでも「不景気に負けないように、若い力で日本を元気に! それぐらいの気持ちでみんなやっている」と力を込める。

今年の記念行事は創作太鼓と創作踊り。記念品には自分たちでデザインを考えたエコバッグや和ろうそくをそろえるなど、「ふるさと」にこだわったものが並ぶ。その他、会場には中学時代の懐かしい体操服も展示予定とのこと。

「家族・先生・友達など、これまで自分が関わった人たちがみんなに感謝の気持ちを伝えたい。実行委員会の仲間や当日成人式に参加してくれる仲間との出会いの大切さを感じながら、七尾に生まれてよかったと、ふるさとへの誇りを感じられるようなあたたかい成人式にしたい。20歳の自分たちの姿をたくさんの人に見てほしい」と意気込みを語ってくれた。

—平成21年を振り返って—

9月から11月にかけて無名塾による「マクベス」ロングラン公演が全50回行われました。すばらしい内容で全国から33,000人の方に訪れていただきました。ご支援いただいた多くの方々に改めて御礼申し上げます。

めて重要です。七尾水見間の一日も早い開通をめざします。北陸新幹線の金沢開業も迫っています。それらを見すえて、どのように地域の活性化につなげるかを具体的に考えなければならぬと思っています。同時に人づくりも行わなければならない。将来を担う子どもたちのために教育環境の整備にも力を



地域の文化振興に取り組み、再び全国からたくさんの方に訪れていただき、交流を体感してもらえよう。な取り組みを進めたいと思っています。多くの人をお迎えする「おも

平成22年は長谷川等伯没後400年の年。
元気な七尾を全国に発信し、市民一人ひとりが
輝く交流体感都市をめざしたい。

七尾市長 武元 文平

—市の現状とこれからの抱負—

厳しい経済状況ではありますが、七尾にはたくさん資源や財産があり、すばらしいところだと思っています。とりわけ、この地域は農業や水産業が盛んな地域です。こういったものを改めて見直し、私たちの気付かなかった資源を活かしながら元気なまちを作っていきたいと思っています。

地域の経済力をもっと強くし、地域経済を豊かにすることに全力を注ぎます。地域経済を活性化させるためには能越自動車道の完成が極

注ぎます。

—平成22年の重点事業—

3月7日には第2回目の「能登和倉万葉の里マラソン」が開催され、全国から7,000人のランナーを迎えようとして準備をすすめています。能登の冬の味覚「能登かき」も満喫していただきたいと思っています。

世界で最高の水墨画を描いたといわれる、七尾生まれの長谷川等伯が亡くなってから、今年が400年という記念すべき年に当たります。長谷川等伯没後400年に向けて

てなしの心を持ち、「もう一度来たい」「七尾に住みたい」と思ってもらえるような豊かな地域づくりのために、皆さんとともにがんばっていききたいと思っています。

—協働のまちづくりをさらに推進—

行政だけではなく、市民の皆さんとともに「協働のまちづくり」をしなければならぬと思っています。そのためには市

民の皆さん一人ひとりが「このまちは自分たちの手で作っていくんだ」「住み良いまちづくりは自分たちが中心になるんだ」という気持ちを持ち、市民が主役のまちづくりをさらに進めていかなければならないと思っています。

「人が輝く交流体感都市」をめざして、七尾市の総合計画も2年目に入ります。市民一人ひとりが輝き、七尾に住んで良かった、子どもたちがこれからも七尾に住み続けたいと思えるようなまちにしなければなりません。皆さんとともにがんばっていききたいと思しますのでよろしくお願いします。

平成22年が皆さんにとって、すばらしい年になりますことを心よりご祈念申し上げます。

